

限りなく天を目指そう

Be unlimitedly ambitious with desire for improvement

取締役

近藤 隆司

Takashi Kondo



太古，サルが森の木から下りて歩いて旅に出て，最後には人にまで進化したのも好奇心に導かれたからである。従って，人間とは好奇心そのものであり誰でも持っているが，人によって方向の違いや発揮の仕方の上手下手があり，不得手な人には一見好奇心がないように見える。是非，この好奇心と想像力を上手に使うって，技術を進化させ会社の発展に寄与したいものである。

売上5,000億円に手が届くところまで来て，さらに限りなく天を目指す当社にとって，新技術開発，グローバル化，効率化，品質向上……と課題は沢山あるが，いずれにせよ競争社会で他社に勝っていくしかなく，時間をかけてでも着実に対応していく必要がある。

これからの技術開発は顧客満足の高機能，高品質，短納期，低コストの厳しい状況に置かれることは確実で，特に品質競争に打ち勝つことが重要である。ソフトウェアについては，今まで下流工程で不具合を検出し，原因を埋め込まれた上流工程にさかのぼって対策していたものを，要求仕様，機能の早期確定，中間目標の設定，他プロセス管理や仕組みの改善等，ソフトウェア技術部が中心となって様々な対策が講じられているが，顧客要求のソフト不具合ゼロに応えることは非常に高いハードルである。ソフトウェア設計にかかわらずハード設計に於いても，新しい技術に取り組みれば必ずエラーやミスは発生する。しかも発生率と発生するタイミングが十分に予測出来ないため，時としてそれに起因するコストが計り知れないくらい大きくなる場合があり，これは是非とも避けねばならない。米モトローラ社が1980年代にシックスシグマ法*を開発し，日系メーカーも1990年代に導入し，成功した会社も沢山ある。シックスシグマ法は の値を単に3から6にして，不具合の発生率を激減させることだけでなく，エラーやミスの発生する仕組み，プロセスやシステム

そのものにメスを入れ新たな視点をビルトインしたことが素晴らしい点だ。偶然の産物のノーエラー達成よりも、高度に管理されたプロセスによって「100万個の製品中or100万回のオペレーション中に3~4個(回)の不具合発生に抑える」ことの方が意味を持つ。品質にあくまでもこだわって、他社の優れたところはどんどん学び取ってでも完成度の高い技術、製品を開発していくべきである。

グローバル化と一口に言っても、意味するところは多岐に存在する。ビジネス分野では世界市場に共通の技術を利用した製品を供給することによって、技術標準化が競争優位の構築に大きくかかわるようになってきている。今日では次世代DVDにみられるようにブルーレイ陣営とHD-DVD陣営に分かれたデファクトスタンダード形式のしのぎ合いもそれであり、我々も時流に乗り遅れず対応出来る様にせねばならない。また、効率化のための海外設計や海外生産もグローバル化であり、これに伴う重要課題は技術の海外移転である。海外の優秀な人材を引き止めるには、彼らの夢を実現させ、その成果を正当に評価する魅力ある会社にしていかねばならない。

最後に、私的な好奇心から1年前にECLIPSE TDスピーカを購入して聴いている。TDスピーカから流れる心地良いメロディーは、楽しい思い出を甦らせ、心が豊かになったような気持ちにさせてくれる。また、さらなる好奇心からモロッコに行ってみた。「カサブランカ」という古い映画を観た方はご存じでしょうが、旧市街地の運送手段は今でもロバで、地図があっても一人では歩けない迷路のような路地など、混沌とした昔のままの進化のない世界がそこあり、強烈な印象を受けた。

私達平凡な人間が日常生活の中で発揮しているのは、本来持っている能力の5~6%に過ぎないそう。眠ったままにしている90%の能力を好奇心で目覚めさせ、限りなく天を目指しましょう。

以上

*効果性の高い経営品質改革手法